Rosa Plumula ローザ・プルムラ
●茨城大学・大学教育研究開発センター
ニュースレターNo.24

目　次

巻頭言
－教養「教育」の様変わり－ …… 1
教養科目の授業評価について … 2
キャンパス情報
－各学部から－ …… 3
Ｖｏｉｃｅ
－教養科目の楽しみ方－ …… 6
聞いて欲しい私の意見
－大学に入学して思うこと－ … 7
教養教育古今東西 …… 9
掲示板コーナー …… 10
つぶやき …… 10

（平成14年10月発行）

教養「教育」の様変わり

—入り口管理から過程管理へ—

人文学部長　村　中　知　子

戦後日本は高等教育政策をアメリカ型へとシフトしてゆく。その一つが教養部の創設である。アメリカ型の特徴は，プレ専門教育たる教養教育と専門教育とを明確に分離していることにある。アメリカの大学では，学部で教養教育，大学院で専門教育がなされる。この分離をまねて，日本では教養教育専門の教養部が設置されたのである。その背後には，教養教育重視の思想がまぎれもなく存在していたはずである。

ところが，従来の教養教育については「高校教育のくりかえしで新鮮味がない」という批判が絶えなかった。教養部廃止はこの批判を踏襲したものといってよい。だが90年代後半，「学力低下」論議が勢いを増してくると，基礎的な教養教育がまたもや強調されるようになる。アメリカの教育学者マーチン・トローによれば，先進国では，高等教育はマス段階からユニバーサル段階に突入しようとしているという。すなわち，同年齢集団の50%におよぶ進学希望者のほとんどすべてが大学に入学可能となる段階の到来である。

この段階では，入試（入り口管理）による質の高い学生の確保を断念しなければならない。むしろ来てくれる学生に感謝である。大学の存在価値を示すには，学生に柔軟な実力をつけさせうる教育プログラム（過程管理），その結果としての就職先の確保（出口管理）という２点が最優先課題となる。人材養成の基礎となる教養教育は地味ではあるがいっそう注目されることになるだろう。さらに，高校教育の積み残しを「接続教育」として大学が引き受けざるをえなくなっている。

馬を水辺に引いていっても，水を飲んでくれなければ意味がない。「水を飲ませる工夫」が今まさに大学の教育に要求されているのだと考えざるをえない。

教養科目の授業評価について

「授業評価アンケートで溝を埋める」

大学教育研究開発センター
副センター長　横　山　功　一

「あの先生の授業は，面白くないよな。直ぐに寝ちゃうよ。」「分かりづらいね。何で教え方が下手なんだろう。」

一方，「最近の学生は，授業に集中できない。勉強する意欲があるのか疑ってしまう。」

どうも，学生と教員の双方にかなり大きな意識のずれがありそうです。このような状況を松井宗彦教授（教育学部）は，「教師の心，学生知らず。学生の心，教師知らず。先生は，あの手この手で，理解してもらうための工夫をしているが，学生の半数は，授業の技術に不満。先生は，学生の自発的な学習意欲に期待し，学生は，教師の指導力の向上に期待する。」と述べています（センター年報第６号，平成14年３月）。

前期も終わり，全教養科目について学生による授業評価アンケートを実施してもらいました。皆さんのご協力に感謝します。授業アンケートは，授業状況を把握し改善に役立てるように以前から行われてきたもので，結果は報告書にとりまとめられ公表されておりますので図書館などでご覧下さい。昨年からは授業個別にアンケートを採っておりますが，その結果を見ますと，授業に対する満足度，理解度，授業方法に対する評価などの評価項目に対して，おおむね良好な評価を得ております。「非常に役に立った／非常に良い授業でした。」「先生に意欲があるとこんなにも授業が面白いんだと実感した。」「授業の進め方や話し方がとても良くて，楽しく授業を受けることができた。」「やり方が違うだけで点数が変わるとは思わなかった。」ただし，中には良好な評価を得ていない授業科目も少数ながら見受けられます。「もう少し，要点をまとめてから授業をしてもらいたい。」「説明がわかりにくく，要点がはっきりしない。板書の仕方も悪い。」「やり方が変わらない限り，他の人には絶対に薦めない。」これらの貴重な評価・授業に対する意見は授業担当教官にフィードバックされ，授業の工夫に活用するようにしてもらっております。ですから，アンケートには感情的な意見ではなく，冷静な評価と改善につながる意見をお願いします。

教員サイドから見ると，「授業にも出てこない学生が，授業の評価をするのはけしからん。」「学生の評価は当たっていない。」という気持ちがあるのも事実です。でも双方が勝手なことを言っていたのでは，何も解決しません。教養科目ではありませんが，理学部では専門科目の授業評価アンケートの結果を学内ホームページ http://www.sci.ibaraki.ac.jp/gaku/questn.html に掲載しています。そこには，アンケート結果だけではなく，教員の声も載せてあります。言ってみれば双方の見解を交換するフォーラムを作っています。一方通行ではない，学生と教官の双方の努力によるさらに一歩進んだ授業改善の試みかもしれません。ただ，授業評価アンケートは通常学期末の授業が終わる頃に行われます。ですから，結果を活用した改善は次学期以降ということになります。本当は授業が進行中に学生と教官が協力して授業をよりよくするのが望ましいということは言うまでもありません。

このようないろいろな試みにより冒頭の学生と教員の溝を少しでも埋めることができるのではないかと期待しております。

キャンパス情報 －各学部から－

人文学部から

昔，ソクラテスは，アテナイ市民一人一人に，「ただ金銭を，できるだけ多く自分のものにしたいというようなことに気をつかっていて，恥ずかしくはないのか。評判や地位のことは気にしても，思慮と真実には気をつかわず，たましい（いのちそのもの）を，できるだけすぐれたよいものにするように，心を用いることをしないというのは」と問いかけ，たましいのことよりも先に，もしくは同程度にも，身体や金銭のことを気にしてはならない，金銭その他のものが，人間のために善いものとなるのは，公私いずれにおいても，すべてはたましいのよさによるのだから，と説き，最も大切にすべきことを最も大切にしているかどうか，何の値うちもない者なのに，ひとかどの者のように思っていないかどうか等々に関して，対話によって自他を吟味しつつ，人間の在り方を根底から問うて行った。

ソクラテスの洞察は，いつの世にも変らぬ人間の姿を鋭く捉えている。そして個々人だけでなく，集団や社会や国家の在り方も，同時に問題にしている。今の日本の世相一般を見ると，日本人の心はすさみ切っているとしか思えないような事ばかりが目に付くが，例えば，経済効率を最優先させ，国民総生産・国民総所得を増大させることに血道を上げて，社会的に弱い立場にある者を切り捨てて行く日本社会の在り様は，できるだけ多くの金銭を所有しようとしたアテナイ人の在り様と本質的には異ならないだろう。しかも，日本においては，国家が教育を管理し，教育も経済至上主義に取り込まれる傾向が強い。

大学教育において，直接的に社会の役に立つ専門的職業人としての知識や技術を習得することは大切であるが，これだけでは勿論足りない。その前に，将来いかなる道に進むにせよ，人間としての基礎となる教養をしっかりと身に付けることが不可欠である。それには第一級の古典をしっかり読むことが欠かせない。優れた古典は人間と社会の本質的な姿を深く鋭く洞察しており，歳月を経ても古びない。高度産業化管理社会の中で人間性を圧し潰されて組織の歯車となり終ることなく，乱れ飛ぶ情報に振り回されることなく，目標を見極めて人間らしく生きるためにも，古典を読むことが必要であり，それが人間存在の核を作るだろう。

（人文学部教務委員　高橋　智之）

教育学部から

大学の正門を入ってすぐ右手に樟の大樹が聳えている。樟は常緑樹だから四季折々の空に映えて豊麗な緑葉を震わせている。私は一日の仕事を終えて門を出るとき何故かこの樟を見上げることが多い。

教育学部は現在大きな曲がり角に立たされている。国立大学の独立法人化の流れの中で，とくに「教育」の再編統合は焦眉の課題である。

しかし，いかなる時代的な変遷があろうとも，「教育」を問う姿勢は変わりようがないようにも見える。時代的，政策的な規定のもとで「教育」は具体化されてくるが，常に「人間」への問いかけを通して「教育」は考えられねばならない。日本人は「国民とは何か」を問うことはしても「人間とは何か」を問うことに怠惰であるようだ。「教育」は少なくてもこの二つの問いを貫くところにはじめて成立するはずである。

教育学部はこの問いを学生と教官が共有しつつ，こ

れまで必ずしも見えてこなかった教育の地平を新たに顕在化する努力をはじめている。授業という場を濃厚な思索と実践の場として組み直すにはどうすればよいか，学部の全力を傾けた構想力が求められている。

先日のオープンキャンパスには近年にない大勢の高校生が参加した。うれしい悲鳴が聞こえてきそうであったが，われわれはこの若いエネルギーを正面から受け止めて十分に手応えのある学生生活を提供する義務がある。参加者のひとりは，前日水戸に来て説明会に臨んだが，ますますやる気が出てきました，と感想を述べて帰途についた。

若者よ大樹たれ。この言葉に見合うだけの豊かな土を造らなければならないと，気持ちを新たにした次第である。

（教育学部教務委員長　橋浦　洋志）

理学部から

石塚・理学部教務委員長に「このニュースレターを書いていただけませんか」と電話で言われ承諾しました。私のようなロクに経験のない若手の教官が教養教育のうんちくを垂れられるはずがないし，理学部を知り尽くしていないので，自分の私見しかここでは書けません。「理学部から」と題されていますが，私の考えは理学部の意見ではないのでご了解下さい。

日本の大学の理学部は，昔から「役に立たないことをやっている」と批判されています。

現在は時代が変わり理学部からベンチャー企業が立ち上がるなど「役に立つ」研究が出てきています。産学官協同研究は，倫理にもとるものでないかぎりどんどん推進して欲しいものです。

しかし，理学部に真に求められているのは産業の発展に寄与することでしょうか。学生さんには「批判的精神」も学んで欲しいと思います。国や企業に対しても堂々と批判できる精神が必要ではないかと思います。

現在「マイナスイオン」ブームです。最近，滝の近くに行くとマイナスイオンが出ると，朝のテレビ番組（袋田の滝が中継されていました）でアナウンサーがさかんに言っておりました。いわゆる「マイナスイオン発生装置」は大手メーカーでもつくられています。ただ，マイナスイオンが存在することはいまだに証明されておりません。高校や大学初年度の化学で習う用語の中で，似たような術語として，「陰イオン」（負の電荷をもった原子および原子団のこと）があります。この英語訳は negative ion(anion) であって minus ion ではありません。マイナスイオンは和製英語です。陰イオンは体にいいものだけではありません。すると，「マイナスイオン」ははたして何でしょうか？「マイナスイオン」は存在しないと私は言っていませんが，まだ証明されていないことを堂々と宣伝するのはいかがなものかと思います。今年８月にアメリカに研修に行ったとき，電気店で「マイナスイオン製品」は見かけませんでした。マイナスイオンにかこつけて売っているのは日本だけじゃないかと思うのですがどうでしょうか。

今の例を挙げたように，学生さんは社会に対して堂々と批判できる態度を身に付けて欲しいです。そういう人が育たないと日本は滅びます。

（理学部教務委員　森　　聖治）

工学部から

教育の IT 化が喧伝されています。注目される一つ，シラバスの Web 化は，外に向けた大学の特色アピール，内においては在学生の便利なページ，ついでにシラバス印刷経費の削減などが期待されるでしょう。近隣の大学にても全学的なシラバスの Web 化が進行しつつあります。本学でも鋭意検討されているようです

が，個別的には，工学部や大学教育研究開発センター等で，各々の方式に沿いWeb化が行われています。

工学部では，昨年度の教務委員会の下に進められ，昨年度末から利用可能となっています。工学部方式の特徴として，一定期間の間，教官自らがWeb上でシラバス文章を直接入力，編集できます。そのため，校正の回りくどさはありませんが，見栄えを気にすると時間がかかります。ソフトウェアはボランティアで作成されていますので，利用者の意見を反映した見易さ，分かり易さや扱い易さなどに関する今後のメンテナンスについて熟慮が必要となっています。

その二としては，個人レベルのIT化，つまり講義のIT化があります。手始めは講義録のWeb化，「Web講義録」です。十分に調査はしていませんが，私自身も含め，複数の教官が行っているようです。

使ってみて気がついたことは，授業中における受講者の反応や質問などに対し，授業終了後直ちに講義録の修正や追加が可能なことです。もちろん，Web講義録にその更新日は付加しておきます。熱心な受講者なら新しい情報をすぐさま見つける筈ですし，予習・復習にも最適ではないかと思っています。ただ，自分で筆写したノートとダウンロード・ノートの功罪については，今後の検討が必要です。

大学教育の充実が問われる中，教える側と学ぶ側の双方に便利なものは使っていくことが必要でしょう。

（工学部教務委員長　岸　義樹）

農学部から

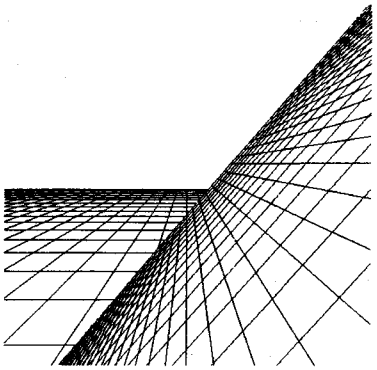
―ドクターとってアメリカへ行こう―

松浦学さん，西澤智康さんは二人とも茨城大学農学部でドクターをとり，今アメリカでポストドクターとして活躍している農学部ＯＢのエースです。茨城大学農学部でドクターをとり，と書きましたが，正確に言えば東京農工大学のドクターです。昭和60年４月，東京農工大学農学部，宇都宮大学農学部，茨城大学農学部の三大学が，東京農工大学大学院連合農学研究科という博士課程だけの大学院をつくりました。だから，研究しているところは茨城大学農学部であっても，東京農工大学のドクターなのです。

松浦さんは，テキサス大学オースチン校でイントロンの研究をしています。西澤さんは，ミネソタ州立大学医学部で放線菌からのポリケチド合成の遺伝子工学の研究をしています。年報３万ドル超です。1ドル100円とすると，300万円ですね。Ｄｒ．タナベのボストン便りというホームページの書き込みによれば，これはアメリカ人の平均年収ぐらいのようです。日本のポストドクターは，ときに600万円ぐらいにもなるそうですが，物価を考えると生活程度はまあいい勝負ではないか，と思います。しかし，研究者として名を成すには，それはアメリカの方がだんぜん有利です。そして，ここが重要なところですが，日本の学位もアメリカの学位も，学位としは等価なのです。

農学部でドクターをとって，アメリカで研究者として，活躍してみませんか。アメリカでポストドクターとしてのとりあえずの職を得るノウハウは，今の農学部にはあります。勇んで進学してきてください。

（農学部教務委員長　小杉山　基昭）



Voice －教養科目の楽しみ方－

石　下　絵里加（人文学部２年）

大学に入ってまず初めに受ける授業・教養科目。「教養」という名前だけあって，その内容は基礎的なことが多いです。さらに，各分野決められた分は，最低でも履修していかねばならないので面白くないことが多いかもしれません。苦手分野も履修しなくてはなりませんし，実際に，私も「教養科目は楽しいか」と尋ねられたら「あまり楽しくない」と答えるでしょう。

しかし，「教養」にはｃｕｌｔｕｒｅ―すなわち「耕す」という意味が与えられています。つまり教養科目は，我々がこれから学問をしていくうえで必要な前準備だと考えることができます。そう思って臨んでみると・・・どうでしょう，少しはつまらなさが消えていくように思いませんか。

実際，各分野をそれぞれこなさなければならないという事は，さまざまな分野に触れる機会があるということでもあります。つまり，その分だけ視野を広げることが可能になり，多面的な見方が出来るようになるのです。一つの事に熱心に打ち込むのは素晴らしいことですが，ともすれば視野狭窄になりかねません。そのような事を防ぐためにも「教養」として様々な知識を身につけることは非常に有意義なことなのです。今まで興味のあった内容以外にも興味が沸いてくるかもしれません。あるいは新たに学んだ知識・見解から，自分の考え方が変化するかもしれません。いずれにせよ，学んでみて無駄なことは無いと思います。

このように教養科目の意義を理解したうえで（あくまでも私の個人的な見方ですが）授業に臨んでみると，つまらなさ・退屈さが減少し，これから行う自分独自の「学問」に対する期待が増えてゆくのではないでしょうか。

服　部　友　樹（教育学部２年）

私は教養科目を履修しているが，おもしろいもの，つまらなくて仕方のないものがあり，思いは様々である。そんな私の教養科目の楽しみ方を紹介してみよう。

当然のことではあるが，まず，興味に従って科目を履修することが大前提である。幸いにして，履修科目選択幅はとても広い。ファンタジー文学もあればパソコンの使い方，哲学や心理学も並んでいる。これには非常に感謝している。既に学んだことを更に深めるのも，逆に新しい分野に挑戦するのも，全く自由であることは嬉しい。

さて，面白いと感じる授業を楽しむことは至極簡単だ。なんにせよ授業内容を理解することが肝要だが，それ容易なのである。思考を深めるにしろ未知の分野を開拓するにしろ，新しい世界が流れ込むことを自覚することはとても心地よい。少し難解な箇所があれば，友人と「あれってどういう意味だった？」という具合にちょっとした議論を交わしたりもする。つまり，教養科目の一番の楽しみは，自己の中に新情報が構築されていくことにある。興味がある事柄なので尚更だ。

しかし，つまらない授業を楽しく受けることはかなり難しい。つまらないのは大概の場合，教授が何を言っているか，また書いているか判断できないような，とかく曖昧な講義であることが多い。普通，私は理解できるよう努力する。それでも駄目な場合，私は，諦める。私の場合，好きな本を読むことが多い。或いは眠ってしまうこともあった。さすがに単位は落とさぬようにしたが，夏場は空調の効いた教室で本が読めるので幸せな思いをした。こういう楽しみ方もあるには

ある。

最後に，講義自体がおもしろいにしろつまらないにしろ，それとは別にもう一つ楽しみが挙げられよう。それは，学部の枠に囚われない人間関係が広がる余地のあることである。事実，教養科目が一緒だったおかげで学部だけでなく多くの友人ができた。教養科目の二次的な楽しみ方を此処に求めるもまた一興ではなかろうか。

濱　田　大　典（理学部２年）

一年次の時，時間割の多くが教養科目を占めていました。また，二年次になった今でもいくつかの教養科目を受講しています。

さて，ここで教養科目の楽しみ方について。とはいっても，私は教養科目がおもしろいものだなんて，あまり思ったことがないです。特に人文，社会の分野。これらはほとんどつまらなかったなぁ。こんなことばかり書いていると今回のテーマ「教養科目の楽しみ方」からどんどんずれていってしまうので，どうしてつまらなかったんだろうということを考えて，思いあたったことを書いていくことにします。

まず一つ目。講義の内容をあまりにテキトーに選んでしまったことです。つまり，全く興味のない講義を受講してしまったのです。いくら幅広い知識を得るための教養科目でも，まったく興味のない分野はとるべきではないです。まったく興味のないものを選んで，それに対し興味をもたせてくれるような講義は，はたしてあるのかどうか疑わしい。そんな講義をとっても楽しみ方なんて話にはなりません。

二つ目　自分のとった講義には出席しましょう。そして寝ないで起きてましょう。話を聞きましょう。自分のことをタナにあげればこれらは当然ですね。

今あげた二つのことをクリアしていよいよ楽しみ方。雑学を学んでると思って勉強してみてはいかがでしょ。やっぱりベンキョー，ベンキョー，ベンキョーって考えるとつまんなくなっちゃう。「あぁーこんなことがあるんだなぁ」くらいでいいと思います。そうすれば知る楽しみとかもでてくるのでは？まぁ，単位を落としたらそれはそれということで。

以上，たいした文章が書けなかったと思うので，やっぱり楽しみ方なんていうのはみなさんがテキトーにみつけて，テキトーに楽しんでみて下さい。

聞いて欲しい私の意見　－大学に入学して思うこと－

小　林　仁　美（人文学部１年）

受験してこの大学に入ったけれど達成感みたいなものはなかった。ただ，満足できない自分がそこにいたので，入ったら，あれをしよう，これをしようといくつかの目標はあった。また，受験で増やした知識を大学で減らしたくなかったので，今までにたくわえたものを生かしていこうと思っていた。しかし，入ってみるとこれだけやる気に満ちていた私だが全く勉強しようとする意欲が湧いてこず，かえって正反対の道へ進んでいるような気がする。自分から主体的に動かなければ何もはじまらないということにやっと気付いた。大学側に過大な期待をしても，何もかえるものはないのだ。また，大学専門的にやろうとまで思わなかったりまたそれほどの基礎学力を持っていない科目があった。そんな科目を学べる教養科目はありがたいと思った。シラバスの内容も学習のねらいなど書かれてあるため，その時はやる気がでた。実際うけてみておもしろいと感じるものもそうでないのもあったが，シラバスによって，ある程度の方向性が見出せたと思う。ま

た人間関係が高校以前のものと違うと思った。以前は毎日クラスメイトとして会う人がいて，その中に友人がいたのだが，今では毎日会う人はほとんどいない。このように薄い人間関係の中でうまく付きあっていくのに最初戸惑ったが，今は慣れてきたように思える。

石　垣　博　誉（工学部１年）

長い受験勉強の日々を終えて，今までよくがんばって勉強したなと自分に感動しているうちにいつのまにかもう四月に入り，入学式も終え，授業も次々に始まり，気づけばもう初めてのテスト期間を向かえていました。

四，五，六，七と四か月の間大学生活を送ってきて高校と大学との違いに，最近は慣れましたが入学当初は少なからず動揺と，とまどいがありました。何についても担任の先生が指示してくれて，それに従って行動していればよかった高校生活に対して，大学では自分から何かしようとしない限り，本当にほとんど何もできなくて，いつまでも「明日やろう，明日でいいや」と思っていると，いつの間にかもう自分のやりたい事が，出来なくなってしまうのです。

それともう一つ感じた事は，お金に対してとても貪欲になったという事です。これは自分だけかもしれませんが，大学に入って初の一か月間，一人暮らしをしているので，親から一定の仕送りをもらっているのですが，その最初の一か月間では，月の終わりになるといつのまにか残高が二九三円になってしまい，自分のそれまでの生活ぶりにとても後悔していました。それからは大分節約することを覚えて，どんどんお金に貪欲になっている自分がなにかちょっと頼もしく感じました。大学とは，自分自身を育てていく場だと，最近感じてきました。

望　月　陽　子（農学部１年）

私は農学部なので，農学部の視点で書いてみる。知っての通り，農学部生は二年次から阿見へ行くので，水戸には 1年しかいれない。このことによって私たち農学部生や工学部生は，他学部生とは違う思いを抱えて大学生活を送っているはずだ。

勉強面では，一年次のうちに教養科目や専門科目の必須を落としてしまうと，いわゆる「水戸通い」という状態に陥ってしまう。阿見・日立で開講されている授業に支障なく水戸に行くのは大変らしい。水戸に行くのにとても時間がかかり，時間が制限される。他学部生は落としてもこんなに面倒にはならない。それと二年次になって取れる未修外国語も非常に少ない。せっかくやり始めたので最後までやりたいのにやれないのは残念なことだ。

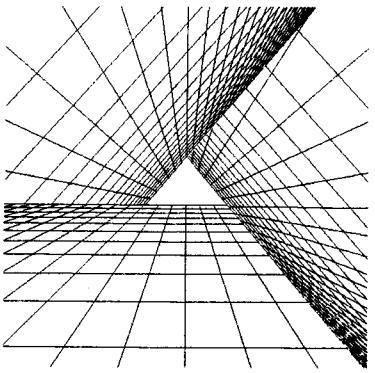
サークル面でもそうだ。1年次のうちに水戸のサークルに入ると，1年で辞めるか通わなくてはならない。これを嫌って入らない人もいる。阿見・日立のサークル数は格段に少ない。農・工学生が遊べるのは1年のときだけときくが事実だと思った。学生の本分は勉強だが，社会に出る前に礼儀とか年上の人との接し方を学んだり，交友関係を広げることも勉強に匹敵するくらい大切なことだと思う。考え方や興味も広げられ将来を決定するヒントにもなるはずだ。

土地・環境の問題もあって，阿見・日立にキャンパスがあるのだろうけど，作るときに，私たち学生の身になってもう少し考えてほしかった。しかしきっと阿見は阿見でしかない，いい所があるはずだ。そこを見つけて自分にプラスになる充実した大学生活を送りたい。

教養教育古今東西

理学部併任教官　高　野　勝　男

教養部に関する資料を研究室の移転で，整理してしまったので，思い出して書き記すのはとても困難ですが，思い出すまま，書くことにします。友人のギリシャ人が 1ケ月程，水戸に来られ，奥さんが大学の英語の教官であったので，英語の先生方に英語教育のことについて，研究討論をお願いしたことがあった。ギリシャでは，ギリシャ語と英語の違いが非常に大きくて（ヨーロッパの中では，あのギリシャ文字が独特な文化圏を作り出している）英語の教育がとりわけ問題になるということだった。ヨーロッパ人は全くわからないこと，理解できないことを表現するのに，これは私にはギリシャ語だという，そうである。日本人はなんというのか，とたずねられて，小生にはわからない，としか言えなかった。日本語には，チンプンカンプンという言葉はあるが何のことか，小生は理解してなかったし，なんと言えばよいのか，こまってしまった。そんな機会に，ギリシャの大学生活について，聞くことができた。9月から新学期が始まる。授業料はただ，食費，寮費もただ，国家がめんどうをみてくれる。それで，学生達はよく勉強するか，とたずねると，多くの学生は普通に勉強するという。教養課程の授業内容も茨城大学の教養科目の授業内容と変わらないように思われた。どうして，授業料，食費，寮費等ただにして，学生達の支援をして，勉強させているのか，その時は，小生には理解できなかった。後に，ギリシャの大学に，7ケ月滞在して，学生寮の食事を1ケ月食して，彼ら学生と話しする機会があって，ようやく理解できたことであるが，学生達には，2年間の兵役の義務があるというである。小さな島々からなり，トルコ，アルバニア，ブルガリア，マケドニアなど国境が長く境し，紛争にかり出されたり，国境の警備につかなくてはならないという状況があるということである。若者が国を守らなければならないという事情と，やせた岩だらけの国土であるが故に，貿易と産業を盛んにしなければならないという状況が，国策として，若者を大事にし，教育にお金を使っているということなのであろう。ギリシャは貿易国として，東ヨーロッパの中では豊かであることはよく知られたことであるが，学生達，若者を大事にするということはあまり知られていないのでないかと思う。教養部の学生委員会では立看問題，自治会室の移転問題，建物の鍵の問題など，いつも起きていたように記憶している。しかしながら，近年，自治会が消失してしまった，なくなった，と聞いて，時代は変わってしまっているのだと感じた人は小生だけではないと思う。建物の鍵の問題はある教官が学生自治会に責任をもたせることで解決したが，責任感のある立派な先生で，また教養教育の改革のことにも熱心であったが，教養部の解体の前に，残念に思うのだけれど，他の私立大学へ移っていってしまわれた。



掲　示　板　コ　ー　ナ　ー

電子掲示板の利用について

平成13年度から，共通教育棟において，電子掲示版により，休講・教室の変更・集中講義及び大学の行事等を掲示されておりますが当分の間，学生の呼び出しや試験等については従来どおりの掲示板によりお知らせしますので注意して下さい。

掲示板を見ないことにより，所定の期日までに手続きなどができず，不利な取り扱いを受けることもあります。

登校，下校，授業の合間には従来の掲示板と電子掲示板の両方の掲示に注意して下さい。

－ 毎日3回は見ましょう －

つ　ぶ　や　き

有意義で楽しい夏休みだったでしょうか。

私は，脱原子力エネルギーと環境共生型都市づくりをめざす北欧とドイツの視察旅行に 10 日程行ってきました。

日本でもこれらに関する紹介文献と情報は過剰なほど入手できるのですが，それぞれの国の自然環境，歴史，文化，政治・行政制度，人口規模等の社会システムをふまえて書かれているものは少なく，断片的な紹介にとどまっているという観を強くしました。

飛行機に 1時間も乗れば他国で，言葉も通貨も違うヨーロッパの狭さも実感でき，EU 統合の必然性も納得できました。

短い視察旅行なので印象に過ぎませんが，個人の自由をベースとするアメリカ型の社会システムと伝統文化を重んじる西欧型の社会システムの狭間にあって右往左往する「優柔不断な」日本の社会システムの心地よさを再確認した旅でもありました。歳をとりすぎたのでしょうか。

（斎藤　義則）

発行日　平成14年10月
発行者　茨城大学　大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029(228)8416(学生課教養教育係)